

Rotary

奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Serve To Change Lives



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 倉 井 章

幹 事 渡 邊 和 裕

会報・雑誌委員長 原 賢一

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2952号 2022年5月17日(晴れ) 第40回例会 会員数115名

ハイブリッド例会



点 鐘 倉井 章会長

司 会 副SAA 石田裕之会員

◇ロータリーソング「奉仕の理想」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇持帰り弁当 前菜 煮物 揚物 エビチリ
ポーク薄切りポン酢ソース掛け 御飯

ビジター紹介 加藤会長エレクト

◇米山記念奨学生

ラグワスレン、アマルサナーさん

◇入会予定者 原 賢一郎様(建設業)



会長挨拶 倉井 章会長

皆様、こんにちは。本日からご覧の通り、学校形式から円卓に戻しました。会食については、お弁当を持ち帰るか例会後に黙食でお願いできればと思っています。よろしくお願ひ致します。

今日は、この4月より当クラブが新たに受入れを致しました、ロータリー米山記念奨学生が出席をしております。モンゴル出身の、ラグワスレン

アマルサナーさんです。現在、自治医科大学の医学研究科の大学院生です。渡邊ガバナー補佐にカウンセラーになって頂きました。後ほど紹介をして頂きます。

さて、今月5月は「青少年奉仕」月間です。国際ロータリーの第五奉仕部門である青少年奉仕は、ロータリーが若い世代を重視していることを表しています。それは、青少年が将来出現する課題を克服できるよう、私たちがロータリアンとして、青少年への奉仕、青少年の将来に対する奉仕、さらに人類全体への奉仕を通じて様々なツールを提供しようと努力することにあります。一つの奉仕部門において、青少年に対するプログラムやプロ

ジェクトを組み合わせることで、クラブや地区はより強いアプローチで、この価値ある活動に関与することができます。青少年奉仕の指針は、

1. 青少年の間での高い倫理基準及び倫理的な意思決定を奨励する。
2. 青少年のニーズや願望や関心を理解し、認識する。
3. 青少年に機会を提供する。
4. 国際ロータリーが提供する人道的、指導力養成、教育関連のプログラムへの青少年の参加を奨励する。

であります。

「青少年奉仕」の経緯は、1916年、青少年活動奉仕委員会が設立され、1927年、四大奉仕部門の承認を得て、1974年より、青少年交換プログラムが始まりました。1996年には、「青少年活動月間」を「新世代のための月間」と改称し、2010年、「新世代奉仕」が加わり五大奉仕となります。そして、2013年、「新世代奉仕」を「青少年奉仕」と改称しております。

青少年のための主な奉仕プログラムは、

1. 国際理解と奉仕を通してグローバルな未来人を育成するインターアクトであります。12歳から18歳までの青少年のための奉仕クラブです。当クラブでも、宇商マーキュリーIACを提唱しております。
2. 指導力養成活動として、ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)があります。14歳から30歳の若者が集まり、リーダーシップ、スキル、人格を養いながら、ロータリーについて学ぶ集中研修プログラムです。RYLAは、セミナー、キャンプ、ワークショップ等の形式が多く、通常、期間は3日間程度で、ロータリアンによる主催の下、クラブ、地区、多地区合同のいずれかで行われております。当地区では、6

月12日に第18回高校生 R Y L A セミナーが開催されます。今年プログラムの内容は、模擬国連です。参加者が世界各国の大使になり、実際の国連会議で扱われている問題などをもとに国連会議を再現することによって、国際社会が抱える問題を理解すると共に、その問題の解決策を探ろうとする活動です。

3. 一年間の海外ホームステイを通して世界平和と異文化の理解を深め、世界市民としての自覚を養う機会を与える、ロータリー青少年交換プログラムです。世界100カ国以上で実施されているロータリー青少年交換は、ロータリークラブによる支援の下、15歳から19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界市民としての自覚を養うことのできるプログラムです。この2年間、ロータリー青少年交換は中止ですが、先般の R I 理事会において、青少年交換に準ずる国際プログラムを2022年7月より再開する決定がなされました。

青少年奉仕の目的は、将来、地域社会および世界のリーダーとなる青少年を育成することにあります。今後とも、当クラブにおきまして青少年奉仕活動を積極的に行っていくべきと考えます。

本日は、第7回クラブ協議会です。今月8日に開催されましたロータリー指導者のための地区研修・協議会のご報告を頂きます。

以上、会長挨拶とさせていただきます。

◇新たに迎える米山記念奨学生の紹介

紹介者 米山カウンセラー 渡邊有規会員

- ・奨学生 ラグワスレン, アマルサナーさん (LKHAGVASUREN, AMARSANAA)
- ニックネーム アマラ



- ・期 間 2022年4月1日～2024年3月31日
- 現在33歳。モンゴル出身。モンゴルの国立医学大学を卒業。3年前に来日し、現在、自治医科大学3年。医療課程 脳神経外科学専攻。
- ※紹介後、アマラ君からご挨拶頂きました。

- ◇奨学金の授与
米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナーさん (アマラ君)



幹事報告

渡邊和裕幹事

- ◇今年度事業報告、次年度事業計画、提出がまだの方はお早めに事務局にご提出を。



委員会報告

- ◇スマイルボックス委員会 手塚委員長
渡邊有規会員

先日、大人の休日ゴルフにて、なんと、私が優勝をいたしました。ハンディとパートナーに恵まれました。ありがとうございました。

渡邊和裕幹事

宇都宮市内10クラブ親睦ゴルフコンペで宇都宮東RCが団体賞4位に入賞し、賞金の一万円をスマイルします。参加者の皆様、ありがとうございました。

- ◇出席委員会 岡田委員長

<皆出席表彰・4月分>

- 連続27年 片山 幸志会員
- 連続12年 松山 栄会員
- 通算12年 入江 武会員
- 連続11年 黒澤 佳樹会員
- 連続10年 塚越 淳史会員
- 通算2年 橋本 統会員

「3分間スピーチ」

石川元信会員



こんにちは。5月5日の誕生日で還暦を迎えました。本日はお坊さんとしてお話をさせていただきます。誕生日と言えば、我々が大事にしているのは、4月8日のお釈迦様の誕生日です。桜の花の下でお釈迦様の「花まつり」、と思っている方が多いかと思いますが、本来は、5月8日（旧暦4月8日）ですから、花まつりは、沢山の「花」が咲いている時期に行なわれる、ということです。桜が咲くのが3月末から4月はじめということで、逆にいうと、桜の花が咲いた時は、お釈迦様が亡くなった日、2月15日です。かの西行法師という方が、お釈迦様と同じ日に桜の下で死にたい、「願わくは花の下にて春死なん その如月の望月のころ」と願いました。同じ日に亡くなっています。なぜ、桜の花が花まつりになったかですが、明治、新暦になってから、ちょうど桜の時期に花まつりが行なわれ、その時に説教される和尚さんが、「花まつり、お釈迦様、

「花咲かじいさん説」を唱えたのです。皆の心に花を咲かせるためにお釈迦様が来た、それが花咲かじいさんです、という話をしたので、それが爆発的に広がって、花まつりは桜の木という形になったようです。

さて、お釈迦様の生まれた時の話です。右手をあげて上を指し、左手で下を指している姿をみかけたことがあるかと思います。「天上天下唯我独尊」とありますが、上を目指して優れた人物になりましょう、下は皆を救っていきましょう、ということで指をさしているそうです。ロータリーの、皆様それぞれが人格を形成し、優れた人間となって多くの人を救っていきましょう、という奉仕の理想であります。まさに、ロータリアンが仏様だと思っています。

※次回3分間スピーチは小林正明会員

クラブ協議会（第7回）

<2022-23年度 地区研修・協議会の報告>

司会 塚越淳史次年度幹事

地区研修・協議会は、5月8日（日）に作新学院大学 作新清原ホールにて行われました。ホストクラブは、宇都宮陽東RCです。3年ぶりの開催で、コロナ感染対策の関係から、午前と午後にグループ分けして開催され、当クラブは、午前の部に、次年度会長以下10名で参加しました。

参加者

会長・幹事部門：加藤会長エレクト、職業奉仕部門：床井次年度職業奉仕委員長、クラブ奉仕部門：谷田部次年度プログラム委員長、田原次年度会員増強委員長、倉井次年度公共イメージ委員長、青少年奉仕部門：辻次年度青少年奉仕委員長、次年度インターアクト委員長の代理で野添次年度副幹事、社会奉仕部門：黒澤次年度社会奉仕委員長、国際奉仕部門：次年度国際奉仕委員長代理で塚越次年度幹事、ロータリー米山記念奨学会部門：金子次年度ロータリー米山記念奨学会委員長

会長・幹事部門

加藤会長エレクト



最初に全体会議で、来年度の地区大会が12月11日（日）に、新しく出来る駅東のコンベンションセンターで開催予定との話がありました。皆様、よろしく願い致します。

会長・幹事部門では、地区研修リーダーの中谷

研一パストガバナーよりハラスメントについての講演を受けました。

第一に会長・幹事が無意識のうちに起こしやすいパワーハラスメントの注意点の指導を受けました。多様性のある会員に対して、一方的な要求や無理難題を押し付けないよう、パスト会長ともども注意が必要であることを学びました。

次に、セクシャルハラスメントについて、具体的な事例を示されての注意点を学びました。ロータリーでは各種ハラスメントに対するガイドラインを作成しています。ガイドラインを単に守るだけでなく、一人一人のロータリアンが想像力を駆使して、相手の立場・気持ちを思いやれば、ハラスメントは無くなるでしょう。

職業奉仕部門

床井次年度職業奉仕委員長



9時から全体会議があり、その中で一番印象に残ったのは、DEI（ダイバーシティ・エクソシティ・インクルージョン）です。多様性、公平さ、持ち味を活かし、具現化していこう、ということでした。11時からの分科会では、伊東永峯カウンセラーとリーダー、サブリーダーの話を伺いました。職業奉仕の意味は、分かりづらい部分がありますが、会員の皆さんがすでに実践している職業倫理ということです。何度も繰り返しながら、磨かれ、身につけていくもので、ロータリーは、単なる寄付団体や慈善団体ではなく、心の開発を第一とする団体、とのことでした。職業奉仕の実践は、職業人同士の体験談、知識、知恵を耳にしながら、職業倫理を互いに学び合うことです。例会に参加し、四つのテストを歌い、常に心を磨き続けるということを頭に入れながら、次年度職業奉仕を務めさせていただきます。

クラブ奉仕部門 谷田部次年度プログラム委員長



佐貫ガバナーエレクトは、「会員増強と会員の維持、そして若手会員や社会構造による新しい職種の人々の加入推進をする」と言っております。さらに、ジェニファー・ジョーンズ R I 会長エレクトは講演のなかで、会員増強についてこう述べられています。「ロータリーに多様性、公平さ、インクルージョンを取り入れる努力において、インクルージョンのカギとなるのは、障壁を取り除くことです。そしてインクルージョンこそが、会員増強のカギとなります」インクルージョンとは直訳すると包括・包含という意味ですが、一言で言うなら「性別や人種、民族や国籍、社会的地位、障害の有無など、持っている属性によって排除されることなく、生活することができる状態」となります。もう少し平たく言うならば、「多様な人々が互いに個性を認め、一体感を持って働いている状態」ということではないでしょうか。

これをクラブに当てはめれば、性別・年齢・社会的地位などに依らない会員増強が図れると同時に、会員一人一人の満足度が高まり、最終的には退会防止にもつながるのではないかと考えます。

今回の研修は、コロナ対策のため午前・午後2部に分けての開催でしたが、やはり一堂に会する研修の重要性を実感しました。

社会奉仕部門 黒澤次年度社会奉仕委員長



社会奉仕地区委員として、太城カウンセラー、渡邊委員長、上野委員がいらっしゃるの、非常に心強い中での分科会でした。社会奉仕委員会では3項目での研修を行ないました。

1. 「コロナ禍の中の現実を知る」ということで、とちぎボランティアネットワークの矢野理事長から、子どもの虐待、子ども食堂、貧困についての講話を頂きました。宇都宮の子どもの貧困数は11,094（18歳以下人口11.9%）で、そのうち母子家庭の50.8%が相対的貧困とのことです。活動として、無料学習支援、子ども食堂、フードバンク、居場所等があるそうです。相談者は2020年1298件（495世帯）から2021年1659件（542世帯）に増えているとのことです。

病気・精神疾患、コロナ禍での仕事の減少、DV等で困窮しているそうです。

2. ロータリークラブ社会奉仕の実態の報告
宇都宮東RC：宇都宮東ローターアクトクラブのタキヤプロジェクトについて、宇都宮RC：子ども食堂などの居場所やコーディネート事業への支援について、発表がありました。
3. グループ毎にディスカッションを行ない、RCでの社会奉仕活動の報告をし、その後、グループ毎に発表を行ないました。各RCでの活動状況を知ることができました。

限られた時間の中、全てを学びきることはできませんでしたが、社会奉仕委員会として社会の変化における現状を把握し、如何なる活動が必要か、何が必要とされているか、何が出来るかを、再び見つめ直す機会を作って行きたいと思えます。渡邊委員長の「多くのロータリークラブの皆様が、人々の心身の健やかなる今と未来のために、心から寄り添うことの出来る社会をつくるよう、皆様とともに社会奉仕活動に役立っていきたい」という方針のもと、社会奉仕活動をしていきたいと思えます。

国際奉仕部門

塚越次年度幹事



2022年度の地区の国際奉仕委員長は、宇都宮RCの善林さんです。分科会のプログラムは、委員長挨拶から始まり2020年度にグローバル補助金を利用して国際奉仕活動を行った2クラブの活動報告、最後に、今年度にグローバル補助金を利用した国際奉仕活動報告がありました。

冒頭の委員長挨拶の中で、宇都宮RCの国際奉仕活動は、数年前までほとんど実施したことがなく、当時のガバナーに、何をしたらよいかを直接相談して、タイへ消防車を寄贈したことから始まったそうです。善林委員長は、国際奉仕事業へのハードルを下げ、グローバル補助金を利用したりすれば、いかに実施しやすいかを説明してくださいました。今年度も地区にはタイやその他の国から事業を打診されているので、希望クラブを募っていました。

次に2020年度にグローバル補助金を利用して国際奉仕活動を行ったクラブの活動報告は、壬

生RCと宇都宮RCから報告があり、壬生RCは、所属する第6グループの5クラブの共同事業で、タイへ手術台10基と、現地の外科医トレーニングなどを実施し、また宇都宮RCは、タイのバンコク以外の都市に、除細動器や人工呼吸器を寄贈したとの報告がありました。

最後に、各クラブの今年度のグローバル補助金を利用した国際奉仕活動状況では、西那須野RCだけが現在グローバル補助金を申請中とのことでした。

米山記念奨学会部門

金子次年度米山記念奨学会委員長



11時から約一時間、米山記念奨学会委員会の話がありました。まず、米山奨学生がどのように選考されて、奨学金を受けているか。ロータリー活動に理解のある人材を育成するという目的で米山記念奨学事業が行なわれるという話がありました。当クラブでは世話クラブとしてラグワスレン、アマルサナーさんとサブクラブとして葉 姿君さんを迎えております。米山奨学生の受け入れには、私たちの普通寄付、特別寄付が割当てされている状況です。委員長から、地区目標として米山寄付は一人当たり19,000円ですが、前年を下回らないよう各クラブにお願いしたい、というお話がありました。米山奨学生とクラブ等が親睦を深められるよう、いろいろな形で会合等に参加できるようにしていきたいと思えます。